

皆さん、おはようございます。

いよいよ今日の午後からは新1年生を迎えて、全学年そろって、平成25年度が始まります。4月、学校ではいろんなことが新しくなります。新しいクラスの友達や先生、新しく勉強する科目の内容、新しい立場で取り組む学校行事や部活動など、様々な場面で新しいものに出会うのですが、自分が「今までと違う何か」になっていくことへの期待感や、「今までのままでいられない」という緊迫感、あるいは「何になるのだろう」という不安感など、様々な心の動きに直面するということでもあります。しかし、それもまた「新しくなる」ことのメリットだと思ふのです。毎年桜の花が咲くこの季節がやってきて、自分の居場所が「新しくなる」ことで感じる期待や不安、緊張感は、自分の中にある新しいエネルギーを引き出していききっかけになると思うからです。

少し私自身のことを話させていただくと、今回の人事異動で、この虎姫高校の校舎の中に居場所をいただくのは、1973年に卒業してから40年ぶりのことです。教員としての勤務はずっと湖西・大津方面であったので新しく虎姫高校へ赴任した大きな緊張感がありますが、それ以上に教室や様々な場所に立ってみると高校時代のいろんな出来事が実感を持って思い出されることに新鮮な思いを味わっています。

入学当初は、例えば英語の授業で自動詞か他動詞かと問われる問いそのものが理解できず、立ち尽くしていたのを今も覚えています。でも徐々に家で予習をする習慣がついていくと、授業で立たされることも少なくなり、虎高に馴染んでいけたように思います。2年生になった時にも仲の良かった友達が新クラスには誰もいなくて、5月くらいまでは馴染めませんでした。しかし修学旅行である女の子告白して振られた思い出や新しい友達もでき、最後には名残惜しいクラスになっていました。3年生は今の3年5組の教室が自分の教室でした。クラスに51人いましたが、あまり窮屈な感じはなく、教室でもトイレでも世界史や英単語の問題を出し合う友達が何人かいて、あまり悲壮感のない受験生活でした。書誌学者でエッセイストの林望さんに東京の進学校、戸山高校時代の学校生活を描いた『帰らぬ日遠い昔』という作品がありますが、場所は違っても昔の進学校の空気が感じられ、懐かしい気持ちを共有することができる本でした。「名物教師」と呼べる先生が何人かいて、ちょっと気になるマドンナや少しアブナイ友人もいたり……と、40年前がゆっくり蘇ってくる本でした。

日本の経済や政治・社会の状況は40年前とは大きく異なり、今、皆さんに求められている「高校時代につけておくべき力」も様変わりしていると思います。しかし、私は10代の後半という、人間が大きく変化し、それまでの自分と違う何者かに様変わりしていく時期に、皆さんが乗り越えていくべき課題は、今も昔もそう大きな差はないだろうとも思うのです。昨日、文化ホールで吹奏楽部の「中高連携虎姫コンサート」が開かれ、悪天候にもかかわらずたくさんの方が見に来てくださいました。部員の皆さんが、あれだけ多くの曲を発表するのに要した練習時間はものすごいものがあると思いますが、どの曲もこれに賭ける思いのこもった演奏でした。その理由が最後にわかったような気がしました。というのも、吹奏楽部はこのコンサートを一つの節目として体制が新しくなる、つまり3年生の人たちにとっては最後の大きな舞台であったということです。先を行く者が自分たちの頑張る後ろ姿で、後輩たちに何かを伝えることができる、そんな大切な課題を達成できた、本当に良いコンサートでした。

人は「立場」や「経験」が変わることで新たな「自覚」が生まれ、そして「意識」や「行動」もまた成長していくと思います。「自覚」とは「自分で自分の今の状態、自分の置かれている位置、自分の持っている価値、自分が身につけている能力などを知ること」を言います。自らの自覚をできるだけ的確なものとするためには、「私は私、ほっといて」と独り善がりやで傲慢な自己評価に陥ることも、「どうせ俺なんて分かってもらえない」と投げやりで卑屈な自己評価をすることも不適切なことです。「自覚」は、社会情勢や周りの人たちとの関係などを踏まえて形成されていくものだからです。自己評価だけがすべてではなく、自分で考えて困ったことや悩むことがあれば、先生方に相談してアドバイスを聞いたり、友達と一緒に考えたりしていってください。また、興味や関心のある本を1冊でも多く読んで、社会的視野や見方、感じ方を広げていってください。

この後、3月9日からコアSSH事業でイギリス研修をし、帰国した4名の皆さんから、研修の成果を発表してもらいます。その発表をみんながしっかりと聞いて、またそれぞれの視野を広げていく機会としてほしいと思います。

この新しい一年もまた、皆さんにとっても、私たち教職員にとっても一生に一度しかないかけがいのない時間です。まず健康に気をつけ、また目標を見定めて文字に書き記しましょう。そして実現のための工夫を重ねることを楽しみ、元気で充実した1年を送りましょう。以上、第1学期始業式の式辞とします。

平成25年4月8日

滋賀県立虎姫高等学校長 武友建史